

レガン阻止

4500名が羽田 現地闘争を貫徹

日刊
動労千葉

83. 11. 12

No. 1491

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉二七〇名の隊列で決起

十一月九日、戦争屋・レーガンの来日に反対し、職場から総力で決起した動労千葉二七〇名は、全国の三里塚勢力とともに羽田現地闘争を闘いぬき、日本労働者の名においてレーガン来日に怒りを叩きつけ、中曽根内閣打倒を訴えました。

日本労働者の良心において
戦争屋・レーガンの来日は許せない

マスコミは連日、世界のあちこちで起きている悲惨な殺りくと侵略の状況を伝えていきます。

それはレバノン、グレナダ、イラン・イラク、ニカラグアなどと枚挙にいとまがありません。

こうした殺りくの張本人こそ、アメリカ帝国主義に他ならないのです。

帝国主義世界体制の盟主として、これまで世界を支配してきた米帝は、帝国主義の基本矛盾の爆発のなかで、その歴史的没落を軍事力で挽回しようとする世界で戦争挑発を展開しています。

すなわち、レーガンの恐るべき軍拡・核軍拡の強行、後進国植民地への侵略、武器売却などによって世界の人民を核戦争の恐怖になげこむ世界戦争の危機が激成されているのです。

世界の労働者人民の怒りと憎しみの的である戦争屋・レーガン来日を黙って見過してよいのでしょうか。

戦域核配備の全面支持をはじめ、レーガンの戦争政策を支持し、レーガンの来日で金権田中の延命と政治危機のりきりを策し、侵略と超反動攻撃に突き進もうとする中曽根の目論見を許してよいのでしょうか。

職場ぐるみの決起で

二七〇名の動員をかちとつた動労千葉

動労「本部」革マルはもちろん、社会党、総評が「レーガン来日反対」の闘いを組織でき得ない状況のなかで、わが動労千葉は日本の労働者の良心にかけて全力で羽田への決起を実現しました。

「11・9レーガン来日阻止・中曽根内閣打倒全国総決起集会」は多摩川緑地公園で開催され、二万人の機動隊による戒厳体制をうち破り、三里塚勢力を中心とした全国の闘う仲間四五〇〇名が大結集しました。

集会は、「レーガンの来日を許すものか」「なんとしても阻止するぞ」との気迫がヒシヒシと伝わり、動労千葉の中野委員長、関川前委員長を

じめ、三里塚反対同盟、北富士、そして全国の住民闘争団体などから熱烈な訴えがつけぎました。全発言者が、グレナダをはじめとする軍事侵略の張本人・レーガン来日を阻止し、これを支持し軍事大国化と侵略と改憲の攻撃をエスカレートさせる中曽根内閣の打倒を呼びかけ、そのために三里塚二期決戦に勝利しようと呼びました。

集会終了後、羽田空港に近い本羽田公園まで機動隊の弾圧をはねのけてデモ行進を貫徹しました。

11・9レーガン来日阻止の闘いの模様は、国内はもとより、全世界に報道されました。

日本の労働運動は、戦争放火者・レーガンの来日に「反対」の声すらあげられないという、否定的状況にあります。

こうしたなかで、職場の深部から二七〇名の決起をかちとつた動労千葉の闘いは、日本の労働運動の戦闘的再生にむけたキャスティングボードを、誰が握っているのかを端的に示しています。

11・9闘争の成果を教訓化し、「59・2ダイ改」をはじめとする秋年闘争に、全国の労働者の最先頭で決起しようではありませぬか。

既成指導部や動労「本部」革マル等が、屈服・沈黙するなか、誰一現地闘争に決起した動労千葉をはじめとする4500名の三里塚勢力（発言する中野委員長）

